

全日本実業団は松川町で

サイクルロード 飯田市5年の成果継承

飯田市で五年続けて開いてきた全日本実業団サイクルロードレース大会は今年から、開催場所を松川町に移して実施する。二十六日、同町役場で記者会見を開き、大会日程やコースなどを発表した。

飯田市では自転車レースをツアー・オブ・ジャパンに絞り、同大会を五年の節目で終了することにして、大きな成果を挙げた。大きな大会を飯伊地域で継続したいとの願いから、良いコース設置のできる松川町で開くことになった。

ICから近く、選手や大会関係者のアクセスが容易で、他の会場にはない利点。果樹園に囲まれた自然豊かな環境で、東に南ア、西に中央アを望む眺望の良さも売りとしている。また、ショートとロングコースが設定できる点やフラットと起伏に富んだコースが設定で

きることも、松川開催実現につながった。ルートは清流苑をスタートする上段に設定。清流苑―県松川青年の家―池の平堤―増野公民館―道祖橋―羽場―桑園農村多目的共同利用施設―ゴール(桑園北部)を結ぶ七・五キロ。最高地点の池の平が標高約八百

メートル、県道飯島飯田線が約六百メートルあり、標高差百五十メートルを選手が走り抜ける。TRクラスは二十周、百五十キロで争い、B1R、E1R、F1Rクラスは約半周の周回コースを十一、二十周する。四力アゴリーで約四百人が参加する予定。

主催は全日本実業団自転車競技連盟と全日本実業団サイクルロードレースin南信州松川(仮称)実行委員会。同実行委員会は近く立ち上げ、飯田市の経験者にノウハウを学びながら、運営にあたる。開催日は七月三十一日と八月一日の二日間。二日間開催により、見えてもっとも

迫力が楽しめるTRクラスの単独レースが観戦できるようになった。記者会見で竜口文昭町長やNPO法人南信州バイコロジー協会・熊谷秀男会長らが出席。竜口町長は「町民

の地球環境を見つめ直すきっかけにもなるだろうし、くだもの里まつかわのPRにもつながる。地元で盛り上げてもらえるように説明会を開いてきたが、町としても大会を盛り立てたい」と語った。



記者会見を行う竜口文昭松川町長